

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物看護関連法規	必修・選択区分	必修
		時間数	15
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子(獣医師)		
授業概要	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。		
到達目標	法学総論、愛玩動物看護師法、獣医療関連行政法規、公衆衛生行政法規、薬事行政法規について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻 動物看護関連法規		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章法の基礎知識	法源、実定法の分類	
2	第1章法の基礎知識	「民事」と「刑事」と「行政」・刑の種類	
3	第2章各分野・領域に関する法規	各法規が対象とする動物種	
4	第2章各分野・領域に関する法規	伴侶動物に関わる法規	
5	第2章各分野・領域に関する法規	生産動物に関わる法規・動物が関与するその他の法規	
6	第3章愛玩動物看護師	愛玩動物看護師法	
7	第4章獣医療関連法規	獣医師法・獣医療法	
8	第5章公衆衛生行政法規	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)	
9	第5章公衆衛生行政法規	狂犬病法・その他の関連する法律	
10	第6章薬事行政法規	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について	
11	第6章薬事行政法規	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について	
12	第6章薬事行政法規	その他の関連する法律(麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、毒物及び劇物取締法)	
13	第7章家畜衛生行政法規	家畜伝染病予防法	
14	第7章家畜衛生行政法規	その他の関連する法律(飼料安全法、水産資源保護法、牛海綿状脳症対策特別措置法等)	
15	ふりかえり		

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物愛護・適正飼養関連法規	必修・選択区分	必修
		時間数	15
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標	愛護・適正飼養の基本となる概念、愛護・適正飼養関連行政法規、社会福祉行政・環境衛生法規・野生動物等に関する法律および条約について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻動物愛護・適正飼養関連法規		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章愛護・適正飼養関連行政法規	動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）	
2	第1章愛護・適正飼養関連行政法規	動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）	
3	第1章愛護・適正飼養関連行政法規	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）	
4	第2章社会福祉行政・環境衛生法規	身体障害者補助犬法（補助犬法）	
5	第2章社会福祉行政・環境衛生法規	身体障害者補助犬法（補助犬法）	
6	第2章社会福祉行政・環境衛生法規	身体障害者補助犬法（補助犬法）	
7	第2章社会福祉行政・環境衛生法規	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	
8	第2章社会福祉行政・環境衛生法規	化製場等に関する法律	
9	第3章野生動物等に関する法律および条約	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）	
10	第3章野生動物等に関する法律および条約	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）	
11	第3章野生動物等に関する法律および条約	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）	
12	第3章野生動物等に関する法律および条約	絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）	
13	第3章野生動物等に関する法律および条約	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）、自然公園法における野生動植物保護に関する制度	
14	第8章野生動物等に関する法律および条約	文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度	
15	ふりかえり		

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物感染症学Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香(獣医師)		
授業概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標	寄生虫の分類と特徴について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻 動物感染症		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第2章1動物寄生虫学総論	歴史	
2	第2章1動物寄生虫学総論	寄生虫症と動物寄生虫学の重要性	
3	第2章1動物寄生虫学総論	寄生虫・宿主との相互関係・動物寄生虫の分類	
4	第2章1動物寄生虫学総論	寄生虫の生活環と生殖法・感染経路と伝播形式	
5	第2章1動物寄生虫学総論	寄生虫・衛生動物の病害と宿主の反応	
6	第2章1動物寄生虫学総論	人獣共通感染症(ズーノーシス)	
7	第2章1動物寄生虫学総論	寄生虫症の治療と看護・ケア・予防対策	
8	第2章2原虫類	総論・赤痢アメーバ・ジアルジア(ランブル鞭毛虫)	
9	第2章2原虫類	トリコモナス	
10	第2章2原虫類	トリパノソーマ	
11	第2章2原虫類	リーシュマニア	
12	第2章2原虫類	アピコンプレックス類(孢子虫類)	
13	第2章2原虫類	ヘパトゾーン類	
14	第2章2原虫類	ピロプラズマ類	
15	ふりかえり		
16	第2章3蠕虫類	蠕虫類総論・形態・生活環・分類	
17	第2章3線虫類	線虫類・回虫類(犬・猫・豚回虫)・蟯虫類	
18	第2章3線虫類	アニサキス類・鉤虫類・糞線虫類・広東住血線虫・馬の円虫類・胃虫	
19	第2章3線虫類	顎口虫類・犬糸状虫・東洋眼虫・鞭虫類・旋毛虫・治療・看護・ケア・予防対策	
20	第2章3-3吸虫類	吸虫類:肝蛭・横川吸虫・肝吸虫・壺型吸虫・肺吸虫・日本住血吸虫・その他の吸虫類・治療・ケアおよび予防対策	
21	第2章3-4条虫類	総論・犬・猫の条虫類・マンソン裂頭条虫・瓜実条虫・多包条虫	
22	第2章3-4条虫類	ウマ・ウシの条虫類・ネズミ・ハムスター・鳥の条虫類・ヒトの条虫類	
23	第2章4衛生動物	総論・節足動物	
24	第2章4衛生動物	ダニ類	
25	第2章4衛生動物	シラミ類・ハジラミ類	
26	第2章4衛生動物	ノミ類・双翅類(そうしるい)	
27	第2章5寄生虫の診断と検査	総論 虫体の固定・保存・染色法・糞	
28	第2章5寄生虫の診断と検査	便内原虫検査法・糞便内鞭虫卵検査法・血液検査法・特殊な検査法	
29	第2章5寄生虫の診断と検査	虫卵培養法・免疫診断法・遺伝子診断法	
30	ふりかえり		

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	公衆衛生学 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香(獣医師)		
授業概要	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標	公衆衛生の概要、疫学と疾病予防、環境衛生、食品衛生について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻 公衆衛生学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章愛玩動物看護師と公衆衛生	公衆衛生の目的
2	第1章愛玩動物看護師と公衆衛生	公衆衛生行政と獣医師
3	第1章愛玩動物看護師と公衆衛生	国民衛生の動向
4	第1章愛玩動物看護師と公衆衛生	愛玩動物看護師と公衆衛生学
5	第2章疫学と疾病予防	疫学とは、健康障害の発生要因
6	第2章疫学と疾病予防	疫学の指標・疫学研究方法
7	第2章疫学と疾病予防	感染と流行・感染症対策
8	第2章疫学と疾病予防	非感染症の疫学・サーベイランス
9	第3章人獣共通感染症	病原体等に関する安全対策
10	第3章人獣共通感染症	ウイルス(ラッサ熱・マールブルグ病・エボラ出血熱・クリミアコンゴ出血熱)
11	第3章人獣共通感染症	ウイルス(南米出血熱・Bウイルス感染症・サル痘・日本脳炎・ウエストナイル熱)
12	第3章人獣共通感染症	ウイルス(デング熱・デング出血熱・黄熱・ダニ媒介脳炎・リフトバレー熱)
13	第3章人獣共通感染症	ウイルス(ハンタウイルス感染症・インフルエンザ・重症急性呼吸器症候群(SARS)・中東呼吸器症候群(MERS))
14	第3章人獣共通感染症	ウイルス(ニューカッスル病・ジカウイルス感染症・チクングニア熱・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・新型コロナウイルス感染症)
15	ふりかえり	
16	第3章人獣共通感染症	細菌(ペスト・結核・炭疽・野兔病・ブルセラ症・細菌性赤痢・サルモネラ症)
17	第3章人獣共通感染症	細菌(腸管出血性大腸菌感染症・破傷風・猫ひっかき病CSD)
18	第3章人獣共通感染症	細菌(ライム病・レプトスピラ症・カンピロバクター症・Q熱)
19	第3章人獣共通感染症	細菌(コリネバクテリウム・ウルセランス感染症・カプノサイトファーガ・カニモルサル感染症・発疹チフス)
20	第3章人獣共通感染症	細菌(紅斑熱群リケッチア症・つつが虫病・オウム病)
21	第3章人獣共通感染症	真菌(皮膚糸状菌症・クリプトコッカス症)
22	第3章人獣共通感染症	寄生虫・原虫性人獣共通感染症(鞭毛虫類・肉質虫類・アピコンプレックス類)
23	第3章人獣共通感染症	寄生虫(線虫症・吸虫症)
24	第3章人獣共通感染症	寄生虫(条虫症・外部寄生虫症)
25	第3章人獣共通感染症	新興感染症と再興感染症
26	第3章人獣共通感染症	新興感染症と再興感染症
27	第3章人獣共通感染症	狂犬病予防の重要性
28	第3章人獣共通感染症	狂犬病予防の重要性
29	第4章人獣共通感染症	狂犬病予防の重要性
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	公衆衛生学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標	公衆衛生の概要、疫学と疾病予防、環境衛生、食品衛生について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻 公衆衛生学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容	
1	第4章食品衛生	食品衛生法
2	第4章食品衛生	食中毒
3	第4章食品衛生	食中毒
4	第4章食品衛生	細菌性食中毒
5	第4章食品衛生	細菌性食中毒
6	第4章食品衛生	ウイルス性食中毒
7	第4章食品衛生	ウイルス性食中毒
8	第4章食品衛生	寄生虫による食中毒
9	第4章食品衛生	化学物質による食中毒・アレルギー様食中毒
10	第4章食品衛生	自然毒による食中毒・カビ毒による食中毒
11	第4章食品衛生	食品とアレルギー・食物アレルギー
12	第4章食品衛生	動物性食品の衛生
13	第4章食品衛生	食品の保存方法
14	第4章食品衛生	食品安全行政の動向・食品由来の健康危害防止
15	ふりかえり	
16	第5章環境衛生	環境衛生とは
17	第5章環境衛生	地球規模の環境問題
18	第5章環境衛生	地球規模の環境問題
19	第5章環境衛生	地球規模の環境問題
20	第5章環境衛生	水の衛生
21	第5章環境衛生	水の衛生
22	第5章環境衛生	水の衛生
23	第5章環境衛生	水の衛生
24	第5章環境衛生	生活環境問題
25	第5章環境衛生	生活環境問題
26	第5章環境衛生	廃棄物問題
27	第5章環境衛生	廃棄物問題
28	第5章環境衛生	衛生動物
29	第5章環境衛生	衛生動物
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	安田一敏(獣医師)・佐々木ルリエ(獣医師)・堀内香(獣医師)		
授業概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標	徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候、代表的な疾患、担がん動物の看護について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻動物臨床看護学各論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章代表的な徴候の理解と対処	徴候とは・代表的な徴候と対処法(全身徴候とその援助)	
2	第1章代表的な徴候の理解と対処	代表的な徴候と対処法(特異的徴候とその援助)	
3	第1章代表的な徴候の理解と対処	代表的な徴候と対処法(特異的徴候とその援助)	
4	第1章代表的な徴候の理解と対処	代表的な徴候と対処法(特異的徴候とその援助)	
5	第1章代表的な徴候の理解と対処	代表的な徴候と対処法(特異的徴候とその援助)	
6	第2章代表的な徴候の理解と対処	代表的な徴候と対処法(特異的徴候とその援助)	
7	第2章1呼吸器疾患	呼吸器疾患とは	
8	第2章1呼吸器疾患	呼吸器疾患の診察・検査・治療	
9	第2章1呼吸器疾患	呼吸器疾患の診察・検査・治療	
10	第2章1呼吸器疾患	代表的な呼吸器疾患	
11	第2章1呼吸器疾患	代表的な呼吸器疾患	
12	第2章1呼吸器疾患	代表的な呼吸器疾患・呼吸器疾患の動物看護	
13	第2章2循環器疾患	循環器疾患とは	
14	第2章2循環器疾患	循環器疾患とは	
15	第2章2循環器疾患	循環器疾患とは	
16	第2章2循環器疾患	循環器疾患の診察・検査・治療	
17	第2章2循環器疾患	循環器疾患の診察・検査・治療	
18	第2章2循環器疾患	循環器疾患の診察・検査・治療	
19	第2章2循環器疾患	循環器疾患の診察・検査・治療	
20	第2章2循環器疾患	代表的な循環器疾患	
21	第2章2循環器疾患	代表的な循環器疾患	
22	第2章2循環器疾患	代表的な循環器疾患	
23	第2章2循環器疾患	循環器疾患の動物看護	
24	第2章3消化器疾患	消化器疾患とは	
25	第2章3消化器疾患	消化器疾患の診断・検査・治療	
26	第2章3消化器疾患	代表的な消化器疾患	
27	第2章3消化器疾患	代表的な消化器疾患	
28	第2章3消化器疾患	代表的な消化器疾患	
29	第2章3消化器疾患	消化器疾患の動物看護	
30	ふりかえり	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜(獣医師)・堀内香(獣医師)		
授業概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標	徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候、代表的な疾患、担当動物の看護について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻動物臨床看護学各論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第2章4内分泌疾患	内分泌疾患とは	
2	第2章4内分泌疾患	内分泌疾患の診察・検査・治療	
3	第2章4内分泌疾患	代表的な内分泌疾患	
4	第2章4内分泌疾患	代表的な内分泌疾患	
5	第2章4内分泌疾患	代表的な内分泌疾患	
6	第2章4内分泌疾患	内分泌疾患の動物看護	
7	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	血液疾患・免疫介在性疾患とは	
8	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	血液疾患・免疫介在性疾患とは	
9	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	血液疾患・免疫介在性疾患の診察・検査・治療	
10	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	血液疾患・免疫介在性疾患の診察・検査・治療	
11	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	代表的な血液疾患・免疫介在性疾患	
12	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	代表的な血液疾患・免疫介在性疾患	
13	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	代表的な血液疾患・免疫介在性疾患	
14	第2章5血液疾患・免疫介在性疾患	血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第2章6皮膚疾患	皮膚疾患とは	
17	第2章6皮膚疾患	皮膚疾患の診察・検査・治療	
18	第2章6皮膚疾患	代表的な皮膚疾患	
19	第2章6皮膚疾患	代表的な皮膚疾患	
20	第2章6皮膚疾患	代表的な皮膚疾患	
21	第2章6皮膚疾患	代表的な皮膚疾患	
22	第2章6皮膚疾患	皮膚疾患の動物看護	
23	第2章6皮膚疾患	皮膚疾患の動物看護	
24	第2章6皮膚疾患	皮膚疾患の動物看護	
25	第2章7感覚器疾患	感覚器疾患とは	
26	第2章7感覚器疾患	感覚器疾患の診察・検査・治療	
27	第2章7感覚器疾患	代表的な感覚器疾患	
28	第2章7感覚器疾患	代表的な感覚器疾患	
29	第2章7感覚器疾患	感覚器疾患の動物看護	
30	第2章7感覚器疾患	感覚器疾患の動物看護	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	佐々木ルリエ(獣医師)・堀内香(獣医師)		
授業概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標	徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候、代表的な疾患、担当動物の看護について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻動物臨床看護学各論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第2章8神経疾患・整形外科疾患	神経疾患とは	
2	第2章8神経疾患・整形外科疾患	神経疾患の診察・検査・治療	
3	第2章8神経疾患・整形外科疾患	神経疾患の診察・検査・治療	
4	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な神経疾患	
5	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な神経疾患	
6	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な神経疾患	
7	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な神経疾患	
8	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な整形外科疾患	
9	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な整形外科疾患	
10	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な整形外科疾患	
11	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な整形外科疾患	
12	第2章8神経疾患・整形外科疾患	代表的な整形外科疾患	
13	第2章8神経疾患・整形外科疾患	神経疾患・整形外科疾患の動物看護	
14	第2章8神経疾患・整形外科疾患	神経疾患・整形外科疾患の動物看護	
15	ふりかえり		
16	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排泄機能障害を伴う疾患とは	
17	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排泄機能障害を伴う疾患の診察・検査・治療	
18	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患	
19	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患	
20	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患	
21	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患	
22	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患	
23	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患	
24	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患	
25	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患	
26	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患	
27	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患	
28	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患	
29	第2章9排泄機能障害を伴う疾患	排泄機能障害を伴う疾患の動物看護	
30	ふりかえり	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅳ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子(獣医師)・堀内香(獣医師)		
授業概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標	徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候、代表的な疾患、担当動物の看護について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻動物臨床看護学各論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
授業計画及び学習の内容			
1	第2章10生殖器疾患	生殖器疾患とは	
2	第2章10生殖器疾患	生殖器疾患の診察・検査・治療	
3	第2章10生殖器疾患	代表的な生殖器疾患	
4	第2章10生殖器疾患	代表的な生殖器疾患	
5	第2章10生殖器疾患	代表的な生殖器疾患	
6	第2章10生殖器疾患	生殖器疾患の動物看護	
7	第2章11救急疾患	救急疾患とは	
8	第2章11救急疾患	救急疾患に関する基礎知識	
9	第2章11救急疾患	救急疾患に関する基礎知識	
10	第2章11救急疾患	代表的な救急疾患	
11	第2章11救急疾患	代表的な救急疾患	
12	第2章11救急疾患	代表的な救急疾患	
13	第2章11救急疾患	緊急時の動物看護	
14	第2章11救急疾患	緊急時の動物看護	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患とは	
17	第3章担当動物の看護	がんの診断に関する基礎知識	
18	第3章担当動物の看護	がんの診断のための検査	
19	第3章担当動物の看護	がんの診断のための検査	
20	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患に対する治療	
21	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患に対する治療	
22	第3章担当動物の看護	がん化学療法	
23	第3章担当動物の看護	がん化学療法	
24	第3章担当動物の看護	がん化学療法	
25	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患の栄養管理	
26	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患の栄養管理	
27	第3章担当動物の看護	腫瘍疾患の栄養管理	
28	第3章担当動物の看護	がん性疼痛	
29	第3章担当動物の看護	担当動物への動物看護	
30	ふりかえり	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物医療コミュニケーション	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	岩田美希(愛玩動物看護師)		
授業概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。		
到達目標	クライアントエデュケーション、院内コミュニケーション、院内業務について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物医療コミュニケーション		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章獣医療面接	コミュニケーション能力	
2	第1章獣医療面接	動物看護学における獣医療面接・獣医療面接を用いたコミュニケーション教育	
3	第1章獣医療面接	獣医療面接の定義・獣医療面接の基本的技法	
4	第1章獣医療面接	獣医療面接を用いた事前問診の方法	
5	第1章獣医療面接	獣医療面接を用いた事前問診の方法	
6	第1章獣医療面接	獣医療面接を用いた事前問診の方法	
7	第1章獣医療面接	獣医療面接の終え方	
8	第1章獣医療面接	獣医療面接の終え方	
9	第1章獣医療面接	その他の獣医療面接の技法を使った具体的な対応	
10	第1章獣医療面接	その他の獣医療面接の技法を使った具体的な対応	
11	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	クライアントエデュケーション(飼い主教育)とは	
12	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	例題による臨床現場での飼い主指導のポイント(飼養管理を除く)・子犬の対応	
13	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	狂犬病ワクチンについての説明・混合ワクチンについての説明	
14	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	不妊手術・去勢手術の説明	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	外部寄生虫の説明	
17	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	子猫の対応・しつけについて・混合ワクチンについて	
18	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	猫の不妊手術・去勢手術・外部寄生虫について	
19	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	肥満犬猫の対応	
20	第2章クライアントエデュケーション(飼い主教育)	入院動物の容態説明・在宅看護の対応	
21	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	飼い主主導を主体としたインフォームドコンセント・インフォームドコンセントとは	
22	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	インフォームドコンセントのプロセス	
23	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	獣医師の行うべきインフォームドコンセントを理解する	
24	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	具体的な事例及び手法・全身麻酔関係	

	授業計画及び学習の内容	
25	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	安楽死に関わるコミュニケーション・書面の同意の必要な場合と必要ではない場合
26	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	チーム獣医療に欠かせないコミュニケーション能力の基本・コミュニケーション能力
27	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	チームの一員としての意識・チーム獣医療に必要な「ほうれんそう」・「かくれんぼう」
28	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	動物病院マネジメントにおける物品の購入や管理・動物病院マネジメントとは・動物看護師に求められるマネジメント能力
29	第3章院内コミュニケーションと動物病院マネジメント	ペット保険の対応、ペット保険についての研究・獣医療従事者に求められる対応
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物生活環境学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。		
到達目標	飼養環境整備、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットへの教育、訓練施設、動物介在教育施設、ペット飼育のマナー、事故やケガなどのリスクへの対応について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 動物生活環境学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章飼養環境整備	犬と猫の飼養環境整備に関わる法律・基準・犬の飼養環境整備・温度・湿度の管理・排泄場所の設置と管理	
2	第1章飼養環境整備	正常な行動がとれる・運動要求を満たす適切な社会性を満たす環境整備・室内における事故の防止	
3	第1章飼養環境整備	その他の必要な飼育用品や設備・留守番中の環境・動物取扱業における犬の飼養管理	
4	第1章飼養環境整備	猫の飼養環境整備・猫のための快適な環境づくり・ペット共生の現状・犬たちとの暮らし方	
5	第1章飼養環境整備	住まいのなかで行動範囲を考える・居場所の作り方・基本生活の場所と設備・間取りから考える病気や事故の予防	
6	第2章ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	ペットツーリズムとは、ペットツーリズムの目的と効果・快適なペットツーリズムの実現のために	
7	第2章ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	動物看護師のペットツーリズムへの関わり・ペット同伴宿泊施設・専用施設・混在型施設・動物看護師の施設管理の関わり	
8	第2章ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	ドッグランの環境整備と管理・ドッグランとは・ドッグラン使用の場合の注意点	
9	第2章ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興・イベントについて学ぶ・イベントの企画・準備・実施	
10	第3章保護収容施設	動物愛護管理センターなどの役割・動物愛護の変遷・動物愛護管理センター等・保護動物の「譲渡率」向上への取り組み	
11	第3章保護収容施設	動物愛護管理センター等での啓発活動・動物収容保護施設での飼養管理・保護施設への導入と感染対策・動物が保護されてくるルート・犬の適正飼養	
12	第3章保護収容施設	保護された犬のトレーニング・譲渡の際の注意点・「殺処分ゼロ」活動の問題点	
13	第3章保護収容施設	災害時のシェルターの役割・同行避難と同伴避難・VMAT（災害派遣獣医療チーム）・災害時における動物看護師の役割	
14	第3章保護収容施設	シェルターメディスン・シェルターメディスンの役割・取り組みと安楽死・民間の動物病院で求められる姿勢	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第4章ペットへの教育・訓練施設	ペット飼育の現状・ペット飼育における様々な課題・ペット飼育の課題と教育の関係性・課題が発生する背景・社会化における教育の重要性	
17	第4章ペットへの教育・訓練施設	飼い主教育における愛玩動物看護師の役割・ペット飼育に適切な知識・愛玩動物看護師ができること・社会科のトレーニングの基礎・社会化と社会化期	
18	第4章ペットへの教育・訓練施設	社会化期が過ぎた場合・パピークラスにおける教育内容・開催場所の環境に対する社会化・屋外の環境に対する社会化・他人に対する社会化	
19	第4章ペットへの教育・訓練施設	犬同士の社会化・手の接触に対する社会化・その他の教育内容・飼い主とペットの同伴型教育・デイケア型（犬の幼稚園）	

	授業計画及び学習の内容	
20	第5章動物介在教育施設	法的背景・飼育舎の位置づけ・環境管理に関する義務
21	第5章動物介在教育施設	学校飼育動物等の施設の環境整備・管理・飼育場所および飼育施設の実 際(ウサギ、チャボ)
22	第5章動物介在教育施設	暑さ対策・風雨対策・屋内飼育(モルモット・ウサギ・ハムスターなど)
23	第5章動物介在教育施設	管理・基本的な注意点・土日祝日・長期休業中など学校休業日の世話
24	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	飼育マナーの必要性や目的・マナーとは・飼育マナーとは
25	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	飼育マナーの歴史・地域における飼育マナーの違い・飼育マナーの変遷・飼育 マナー違反
26	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種条例・動物愛護 管理条例・ふん害防止条例・猫の保護(愛護)および管理に関する条例・規 則・要綱等
27	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー・におい・抜け毛・吠え声・尿 マーキング・マンションなどの集合住宅・ウサギ・その他の小動物・鳥・特定動物・ エキゾチックペット・特に外来野生種
28	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	猫・抜け毛・排泄物・マンションなどの集合住宅
29	第6章ペット飼育のマナー・事故や ケガ等のリスクへの対応	ペット保険の概要・ペット保険が注目される背景・ペット保険の内容・飼養環境 整備・ペットツーリズム関連施設・ドッグラン・保護収容施設・ペットの教育・訓 練施設・動物介在教育施設・ペット飼育のマナー・事故やケガなどのリスクへの 対応
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	ペット関連産業概論	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。		
到達目標	ペット関連産業における職業倫理、ペットの飼養実態と市場規模、各ペット関連産業の現状と課題、動物取扱業について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 ペット関連産業概論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	ペット関連産業における責任と社会的役割、ペット関連産業の広がり与伦理観、職業倫理とコンプライアンス、職業倫理に違反する行為	
2	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	ペット関連産業における職業倫理、法律で定められた飼養管理基準と職業倫理、動物看護師の職業倫理	
3	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	責任と社会的役割を理解する（職業倫理）	
4	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	商取引における関連法規の概要、日本国憲法、民法、商法	
5	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	動物愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）	
6	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）	
7	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	消費者契約法	
8	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	労働基準法	
9	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	個人情報保護法、まとめ	
10	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法	
11	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	法改正の背景、法改正の内容	
12	第1章ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）	販売業者への規制とその背景	
13	第2章ペットの飼養実態と市場規模	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模	
14	第2章ペットの飼養実態と市場規模	各ペット産業の市場規模、獣医業（動物病院）の市場規模、動物病院以外のペット産業	
15	ふりかえり		
16	第3章各ペット関連産業の現状と課題	ペット産業の分類、サービス業	
17	第3章各ペット関連産業の現状と課題	動物病院以外のサービス業の現状、ペットサロン、ペットホテル、ペットシッターの現状	
18	第3章各ペット関連産業の現状と課題	老犬ホーム、老猫ホームの現状、動物カフェの現状	
19	第3章各ペット関連産業の現状と課題	しつけ教室とレンタルペットの現状	
20	第3章各ペット関連産業の現状と課題	生体販売業の現状	
21	第3章各ペット関連産業の現状と課題	ペットショップの現状	

	授業計画及び学習の内容	
22	第3章各ペット関連産業の現状と課題	その他のペット産業の現状
23	第4章動物取扱業	動物取扱業制度の概要、動物取扱業制度の変遷
24	第4章動物取扱業	動物取扱業制度の内容(第一種動物取扱業、第二種動物取扱業)
25	第4章動物取扱業	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理
26	第4章動物取扱業	飼養施設に備える設備の規模の基準、動物の飼養又は保管に従事する従業者の員数に関する事項
27	第4章動物取扱業	動物の飼養又は保管をする環境の管理に関する事項、動物の疾病等にかかる措置に関する事項、動物の展示または輸送の方法に関する事項
28	第4章動物取扱業	動物の繁殖のように供することができる回数、繁殖の用に供することができる動物の選定その他の動物の繁殖の方法に関する事項
29	第4章動物取扱業	その他の動物の愛護および適正な飼養に関し必要な事項、5つの自由に配慮した飼養管理
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科 ※2025年度開講なし

授業科目	動物外科看護学実習Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）		
授業概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング、外科に関する技術の実践と応用、救急救命について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第4章第2節 術後の看護	術後のバイタルサイン評価・麻酔記録	
2	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：一般状態の観察（バイタルサイン評価・モニタリング評価）	
3	第4章第2節 術前の看護	滅菌、汚染の区別・術創の保護	
4	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：疼痛管理・術創管理	
5	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：投薬管理（輸液・抗菌薬・鎮痛薬・輸血）	
6	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：栄養管理	
7	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：排泄状態の観察	
8	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：環境整備（入院ケージ）	
9	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：環境整備（入院ケージ）	
10	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：マッサージ療法	
11	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：徒手療法	
12	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：物理療法	
13	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法	
14	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法	
15	第4章第5節 外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法	
16	第4章第6節 救急救命	救急救命とは	
17	第4章第6節 救急救命	トリアージの判定基準と分類	
18	第4章第6節 救急救命	緊急時のバイタルサイン評価	
19	第4章第6節 救急救命	心肺停止（CPA）とは	
20	第4章第6節 救急救命	心肺停止（CPA）とは	
21	第4章第6節 救急救命	心肺蘇生（CPCR）とは	
22	第4章第6節 救急救命	心肺蘇生（CPCR）の手順：初期評価	
23	第4章第6節 救急救命	心肺蘇生（CPCR）の手順：一次救命措置	
24	第4章第6節 救急救命	心肺蘇生（CPCR）の手順：一次救命措置	
25	第4章第6節 救急救命	二次救命措置	
26	第4章第6節 救急救命	二次救命措置	
27	第4章第6節 救急救命	二次救命措置	
28	第4章第6節 救急救命	救急疾患の基礎知識	
29	第4章第6節 救急救命	救急疾患の基礎知識	
30	ふりかえり	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学実習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	動物看護過程、動物看護記録、入院動物看護、褥瘡管理、栄養管理、痛みの評価について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

	授業計画及び学習の内容		
1	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程とは	
2	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の目的	
3	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：アセスメント	
4	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：看護診断	
5	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：看護計画	
6	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：看護計画	
7	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：看護実践	
8	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の流れ：看護評価	
9	第5章第1節 動物看護過程	動物看護過程の要素	
10	第5章第1節 動物看護過程	アセスメント：何から情報収集を行うのか	
11	第5章第1節 動物看護過程	アセスメント：さらに情報を集める手段はないか	
12	第5章第1節 動物看護過程	アセスメント：解釈・分析・評価	
13	第5章第1節 動物看護過程	看護診断・看護計画：看護目標の設定・観察項目の設定・看護計画の立案	
14	第5章第1節 動物看護過程	看護実践・看護評価	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第5章第2節 動物看護記録	PORを構成する要素	
17	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録とは	
18	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録の目的	
19	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録の注意点	
20	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
21	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
22	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
23	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
24	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
25	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
26	第5章第2節 動物看護記録	動物看護計画を作成できる	
27	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録を作成できる	
28	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録を作成できる	
29	第5章第2節 動物看護記録	動物看護記録を作成できる	
30	ふりかえり	ふりかえり	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	動物看護過程、動物看護記録、入院動物看護、褥瘡管理、栄養管理、痛みの評価について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
	授業計画及び学習の内容		
1	第5章第3節 入院動物介護	衛生管理	
2	第5章第3節 入院動物介護	廃棄物の処理方法	
3	第5章第3節 入院動物介護	主な感染源	
4	第5章第3節 入院動物介護	正しい手指洗浄法	
5	第5章第3節 入院動物介護	診察台の消毒法	
6	第5章第3節 入院動物介護	アルコール綿花の作り方	
7	第5章第3節 入院動物介護	入院ケージの清掃	
8	第5章第3節 入院動物介護	院内清掃	
9	第5章第3節 入院動物介護	入院手続き	
10	第5章第3節 入院動物介護	入院舎の準備	
11	第5章第3節 入院動物介護	ケージの選択・ケージ・入院室の環境	
12	第5章第3節 入院動物介護	排泄・衛生管理・食事	
13	第5章第3節 入院動物介護	コミュニケーション・看護実践	
14	第5章第3節 入院動物介護	退院手続き	
15	ふりかえり		
16	第5章第4節 褥瘡管理	褥瘡とは・褥瘡の発生と経過	
17	第5章第4節 褥瘡管理	褥瘡が起こりやすい部位	
18	第5章第4節 褥瘡管理	褥瘡ケア	
19	第5章第5節 栄養管理	犬と猫の必要栄養素	
20	第5章第5節 栄養管理	ペットフードの種類・給餌回数と量	
21	第5章第5節 栄養管理	嗜好性・給与方法・保存・管理・フードの切り替え・給与方法（食器）	
22	第5章第5節 栄養管理	環境・強制給餌法・経管栄養法	
23	第5章第5節 栄養管理	栄養状態の評価法（BCS）	
24	第5章第5節 栄養管理	成長段階（ライフステージ）別の食事管理	
25	第5章第5節 栄養管理	疾患別の食事管理と療法食	
26	第5章第5節 栄養管理	痛みの種類・痛みの程度の分類	
27	第5章第6節 痛みの評価	痛みによる生理学的変化・痛みによる行動学的変化	
28	第5章第6節 痛みの評価	ペインスケールの評価法	
29	第5章第6節 痛みの評価	痛みの看護法	
30	ふりかえり		

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物看護総合実習ⅣⅤⅥ (動物病院実習)	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	今瑞穂(愛玩動物看護師)		
授業概要	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。		
到達目標	動物病院実習を経て、動物看護業務の理解、動物看護業務の体験、動物看護業務の実践のために知識とスキルを習得する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト第3版		
評価方法	原則、規定された日数における実習参加・レポート提出		

授業計画及び学習の内容

動物看護総合実習Ⅳ	1	動物病院実習 事前説明(4月)	
	2	動物病院実習 事前説明(11月)	
	3	動物病院実習 事前説明(11月)	
	4～30	動物病院実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
動物看護総合実習Ⅴ	31～60	動物病院実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
動物看護総合実習Ⅵ	61～87	動物病院実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
	88～90	動物病院実習 発表	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	グルーミング実習Ⅴ	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太郎、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	犬種標準を理解し、基本的なグルーミング技法や各犬種のトリミング方法を学び、実習授業で実践できるようにする。		
到達目標	代表的な犬種(長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種)においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック(緑書房)、プードル・トリミングの教科書(Eduward press)、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第5巻愛玩動物学(Eduward press)		
評価方法	出席率2/3以上		
授業計画及び学習の内容			
1～90	グルーミング実習	長毛犬種(マルチーズ、シーザー、ポメラニアン、ヨークシャー・テリア、シェットランド・シープドッグ)、プードル、テリア種(エアデールテリア、ベドリントン・テリア)	

東京愛犬専門学校 動物看護学科			
授業科目	グルーミング実習Ⅵ	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太郎、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	犬種標準を理解し、基本的なグルーミング技法や各犬種のトリミング方法を学び、実習授業で実践できるようにする。		
到達目標	代表的な犬種(長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種)においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック(緑書房)、プードル・トリミングの教科書(Eduward press)、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第5巻愛玩動物学(Eduward press)		
評価方法	出席率2/3以上		
	授業計画及び学習の内容		
1～90	グルーミング実習	長毛犬種(マルチーズ、シーズー、ポメラニアン、ヨークシャー・テリア、シェットランド・シープドッグ)、プードル、テリア種(エアデールテリア、ベドリントン・テリア)	

東京愛犬専門学校 動物看護学科(2025年度)

授業科目	総合学習Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	150
対象年次	3年	授業形態	
担当教員	中村知里・黒木厚好・菅谷茜(獣医師)・堀内香(獣医師)・若林智子・飯田美雪・今瑞穂(愛玩動物看護師)		
授業概要	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。		
到達目標	就職活動や就職後に必要なビジネススキルを身に付ける。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック(緑書房)、プードル・トリミングの教科書(Eduward press)、国家試験対策問題集、ハンドリングマニュアル(公認ハンドラー教本・2025年度のみ)		
評価方法	出席率2/3以上		

授業計画及び学習の内容		
1	ドッグウエア①	ペット服について・必要性についての講義
2		ペット服について・必要性についての講義
3		リボン作成
4	ドッグウエア②	犬のおもちゃ作り・縫い方の練習
5		犬のおもちゃ作り・縫い方の練習
6		犬のおもちゃ作り・縫い方の練習
7	ドッグウエア③	犬のTシャツ作り・型紙を作り、布にまち針で留める。
8		犬のTシャツ作り・布の裁断
9		犬のTシャツ作り・布の裁断
10	ドッグウエア④	犬のTシャツ作り・チャコペーパーを使い、縫いしろラインをつける
11		犬のTシャツ作り・チャコペーパーを使い、縫いしろラインをつける
12		犬のTシャツ作り・背身頃を腹身頃を縫い合わせる
13	ドッグウエア⑤	犬のTシャツ作り・袖を縫う
14		犬のTシャツ作り・袖を縫う
15		犬のTシャツ作り・衿ぐり、裾ぐり、袖ぐりを縫う
16	ドッグウエア⑥	犬のTシャツ作り・縫い合わせた布にアイロンをあてる
17		犬のTシャツ作り・袖ぐり(右)を縫い合わせる
18		犬のTシャツ作り・袖ぐり(左)を縫い合わせる
19	ドッグウエア⑦	犬のTシャツ作り・衿ぐりを縫い合わせる
20		犬のTシャツ作り・身頃と袖を縫い合わせる
21		犬のTシャツ作り・アイロンをあてる
22	ドッグマッサージ①	ドッグマッサージの定義と利点・マッサージのテクニック・頭部のマッサージ
23		〃
24		〃
25	ドッグマッサージ②	マッサージの反応・アロマセラピー・前躯のマッサージ
26		〃
27		〃
28	ドッグマッサージ③	ツボと経絡について・中躯のマッサージ・ストレッチ
29		〃
30		〃
31	ドッグマッサージ④	カルテ作成方法・アイシングと温熱療法・後躯のマッサージ・これからのマッサージ
32		〃
33		〃

	授業計画及び学習の内容	
34	ドッグマッサージ⑤	ツボとマッサージの復習と実習
35		//
36		//
37	ハンドリング①	
38		
39		
40	ハンドリング②	
41		
42		
43	メディカルグルーミング①	
44		
45		
46	メディカルグルーミング②	
47		
48		
49	メディカルグルーミング③	
50		
51		
52	メディカルグルーミング④	
53		
54		
55	メディカルグルーミング⑤	
56		
57		
58	ベドリントンテリア①	
59		
60		
61	就職面談	
62		
63		
64	業界説明①	企業説明会(動物病院説明)
65		
66		
67	業界説明②	企業説明会(動物病院説明)
68		
69		
70	特別実習①	JBVP
71		
72		
73	特別実習②	JBVP
74		
75		
76	臨床実習講義①	臨床実習講義
77		
78		
79	臨床実習講義②	尿検査実習
80		
81		

	授業計画及び学習の内容	
82	臨床実習講義③	便検査実習
83		
84		
85	特別実習①	臨床実習① 半日×4回(他はトリミングか休み)
86		
87		
88	特別実習②	臨床実習② 半日×4回(他はトリミングか休み)
89		
90		
91	国家試験対策講座1	第1章動物形態機能学P2～53 細胞・組織・物質移動
92	国家試験対策講座2	
93	国家試験対策講座3	
94	国家試験対策講座4	第1章動物形態機能学P54～89 骨・関節・靱帯・筋肉
95	国家試験対策講座5	
96	国家試験対策講座6	
97	国家試験対策講座7	第1章動物形態機能学P90～183 循環器・血液・造血器
98	国家試験対策講座8	
99	国家試験対策講座9	
100	国家試験対策講座10	第1章動物形態機能学P184～307 呼吸器・泌尿器・消化器
101	国家試験対策講座11	
102	国家試験対策講座12	
103	国家試験対策講座13	第1章動物形態機能学P304～402 内分泌・外皮・
104	国家試験対策講座14	神経系・感覚器・生殖器
105	国家試験対策講座15	
106	国家試験対策講座16	第2章動物感染症学P424～496 細菌・ウイルス・真菌・寄生虫・疫学
107	国家試験対策講座17	
108	国家試験対策講座18	
109	国家試験対策講座19	第3章動物関連法規P498～547 愛玩動物看護師法・獣医師法
110	国家試験対策講座20	獣医療法・薬機法・麻薬及び向精神薬取締法・毒物・劇物取締法
111	国家試験対策講座21	
112	国家試験対策講座22	第3章動物看護関連法規P548～582 感染症法・狂犬病予防法
113	国家試験対策講座23	家畜伝染病予防法・食品衛生関係法規
114	国家試験対策講座24	
115	国家試験対策講座25	第4章愛護・適正飼養学P584～615 動物愛護管理法
116	国家試験対策講座26	ペットフード安全法、身体障害者補助犬法
117	国家試験対策講座27	地球環境問題に関係する国際条約と法律
118	国家試験対策講座28	計算問題対策①
119	国家試験対策講座29	薬用量の計算、希釈の問題、輸液の問題
120	国家試験対策講座30	
121	国家試験対策講座31	完全対策問題集2025年度版
122	国家試験対策講座32	実地問題①(50問)
123	国家試験対策講座33	
124	国家試験対策講座34	完全対策問題集2025年度版
125	国家試験対策講座35	必須問題①(50問)
126	国家試験対策講座36	
127	国家試験対策講座37	完全対策問題集2025年度版
128	国家試験対策講座38	一般問題①(50問)

	授業計画及び学習の内容	
129	国家試験対策講座39	
130	国家試験対策講座40	完全対策問題集2025年度版
131	国家試験対策講座41	実地問題②(50問)
132	国家試験対策講座42	
133	国家試験対策講座43	完全対策問題集2025年度版
134	国家試験対策講座44	必須問題②(50問)
135	国家試験対策講座45	
136	国家試験対策講座46	完全対策問題集2025年度版
137	国家試験対策講座47	一般問題②(50問)
138	国家試験対策講座48	
139	国家試験対策講座49	完全対策問題集2025年度版
140	国家試験対策講座50	実地問題③(50問)
141	国家試験対策講座51	
142	国家試験対策講座52	完全対策問題集2025年度版
143	国家試験対策講座53	必須問題③(50問)
144	国家試験対策講座54	
145	国家試験対策講座55	完全対策問題集2025年度版
146	国家試験対策講座56	一般問題③(50問)
147	国家試験対策講座57	
148	国家試験対策講座58	計算問題対策②
149	国家試験対策講座59	薬用量の計算、希釈の問題、輸液の問題
150	国家試験対策講座60	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	トリマーB級ライセンス講座	必修・選択区分	選択
		時間数	60
対象年次	3年	授業形態	実習
担当教員	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太郎、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	B級ライセンス講座はC級ライセンス資格保持者のなかで希望者のみに実施する。		
到達目標	B級ライセンス取得を目指す。		
テキスト・参考書等			
評価方法	出席率80%以上・試験70点以上（JKC基準）		
	授業計画及び学習の内容		
1～30	B級ライセンス(8月)	1～30時間(5回実施)	
31～54	B級ライセンス(9月)	1～24時間(4回実施)	
55～60	B級ライセンス試験(10月)	6時間(1回)	